

自然の諸問題から公共性へ - キリスト教思想の視点から -

S. Ashina

1 自然神学から公共神学へ

1 環境論とキリスト教思想

- 環境・経済・政治 -

1 - 1 : 環境論と聖書解釈 - 創造論から終末論へ -

- (1) 論争の舞台としての創造論
- (2) 創造論から終末論へ
- (3) 環境論にとっての聖書の意義

1 - 2 : 経済的政治的な問いとしての環境論

- (1) キリスト教思想と環境論との積極的な結びつきとその条件
- (2) 環境論と政治・経済とのリンク キリスト教的な公共性論の構築
- (3) John B. Cobb, Jr.: Christianity, Economics, and Ecology
- (4) Larry Rasmussen, Global Eco-Justice: The Church's Mission in Urban Society

2 生命論とキリスト教思想

- 生命・経済・政治 -

2 - 1 : 脳死論、そしてクローニング

- (1) 生命倫理の諸問題
- (2) 生の次元論から脳死論の宗教的次元へ
- (3) クローニング

2 - 2 : 自己決定論と共同体論

3 コミュニケーション論としての自然神学

3 - 1 : 自然神学とは何か

- (1) 通俗的な理解に対して
- (2) プルトマンの自然神学論
- (3) 自然神学の歴史
- (4) 広義と狭義の自然神学

3 - 2 : コミュニケーション合理性と自然神学

- (1) 自然神学は何を意図しているのか - 証明? あるいは何? -
- (2) コミュニケーション的行為としての自然神学
- (3) コミュニケーション合理性に向けて

4 自然神学から公共神学へ

4 - 1 : コミュニケーション論の拡張の可能性

- (1) コミュニケーションの可能性と現実性
- (2) 弁証としての自然神学 弁証神学を手がかりに
- (3) ティリッヒの二つのモデル
- (4) 挑戦としての弁証 - 論破する弁証 -

4 - 2 : まとめと展望

- (1) まとめ - 自然の神学あるいは自然神学から公共性へ -

< 命題 1 >

自然・科学をめぐる現代のキリスト教思想の問題状況（生命と環境をめぐる倫理的な諸問題）は、公共性の議論への展開を要求する。

< 命題 2 >

自然神学（あるいは「自然」）は広義と狭義の二つの意味を有しており、信仰共同体内部と外部とにおけるコミュニケーションの合理性を担ってきた。このコミュニケーション合理性は、キリスト教と諸宗教との間、あるいは神学と諸科学との間における関係構築の基盤であり、公共性の問題として解することができる。自然神学は公共神学として再解釈できる。

- (2) 前提の共有のないところではどうなるか

1. 言説の役割と限界

言説・合理性だけでは信仰は生まれない

より包括的な議論が必要になる

しかし、言説は信仰の逸脱への批判性の基盤となりうる

2. 批判原理と形成原理

公共性の生成という問題

形成原理の問題

- (3) 前提を共有しない人々との討論

「平和」の場合：

1. 平和主義 1

抽象的、サークル内の

2. 前提を共有しない立場からの問い

家族を殺されたらどうする？

ミサイルを発射されたらどうする？

3. この問いを手がかりにコミュニケーションを作り上げる、そして弁証する

4. 平和主義 2

(4) 後期のテーマへ

3. 現代宗教論の基本問題・宗教基礎論

- ・宗教・キリスト教と公共性の関わりを問うために、そもそも宗教とは何か？
 - ・宗教は、現代の思想状況でなおも存在意味を有しているのか？
 - ・宗教的多元性は、公共性の問いに対して何を要求しているのか？
- この三つの問いは、相互に関連し合っている。

4. 「ティリッヒの宗教論」を手がかりにして

芦名定道 『ティリッヒと現代宗教論』北樹出版

5. 同様の問題状況は、他の現代の宗教論においても、確認できる。

たとえば、パネンベルク、ヒック

6. John Hick, *Interpretation of Religion*

Introduction of 1st Edition

a religious interpretation of religion (not confessional)

the view of religion from within / from without

purely human phenomenon anthropological, sociological, psychological

(1)

religion as a family-resemblance concept

definitional strategies

as forming a complex continuum of resemblances and differences analogous to those found within a family

Paul Tillich's concept of 'ultimate concern' (3-5)

cf. functional

The Soteriological Character of Post-Axial Religion

In all these forms the ultimate, the divine, the Real, is that which makes possible a transformation of our present existence,

unlearning our habitual ego-centredness and becoming a conscious and accepting part of the endlessly interacting flow of life (33)

Salvation/Liberation as Human Transformation

Introduction of 2nd Edition

the religious ambiguity of the universe. the fact that it can be understood and experienced both religiously and naturalistically (xvii)

it is entirely rational for those who experience religiously to trust their religious experience and to base their living and believing on it.

the critical trust principle (xviii)

this is accepted within each of the greatest post-axial traditions on behalf of its own adherents. But if the principle is sound, it must apply to the other traditions as well, and it thereby validates a plurality of incompatible religious belief-systems. (xix)

The hypothesis is that there is an ultimate reality, which I refer to as the Real. which is in itself transcategorial (ineffable), beyond the range of our human conceptual systems, but whose universal presence is humanly experienced in the various forms made possible by our conceptual-linguistic systems and spiritual practices.

all awareness of our environment is interpretative, a form of experiencing-as. (xix)